

平成23年度 理事会議事録

【平成23年度 第1回理事会議事録】

開催日時：平成23年5月23(月) 10時～12時
 場所：東京医科歯科大学 1号館9階会議室
 理事(構成員数)：19名
 出席者数：理事14名、監事2名、オブザーバー3名
 出席理事：三村邦裕(理事長)、佐藤健次、大澤進、吾妻美子、利光央、伊藤昭三、今井正、岩谷良則、小市加陽子、芝紀代子、城田恵次郎、寺平良治、永尾暢夫、信岡学、森田耕司(書面表決)、森山隆則(書面表決)、渡邊正友(書面表決)、狩野元成(書面表決)
 出席監事：合田清、小田力
 オブザーバー：山藤賢(昭和医療専門学校/前事務局)、望月泰男(同)、谷口智也(同)

1. 議事録署名人名人選任 今井理事、城田理事

2. 報告事項

- 1) 平成22年度第6回理事会報告
- 2) 平成22年度第7回理事会報告
- 3) 平成22年度第8回理事会報告
- 4) 各種調査について
 - (1) 震災の影響についてのアンケート結果
 - (2) 国家試験卒業証明書の提出時期について
 本会加盟の全72校より平成24年3月23日(金)までに提出可能との回答を得た。
 この内容で厚生労働省に回答する。
- 5) 50周年記念事業について
 予定通りに執り行われた。
 来賓は、参席予定者中、佐藤乙一先生のみが体調不良のため欠席された。
- 6) 臨床検査技師・臨床工学技士同時取得に関する関係4団体からの声明について
 声明文は4者会談の結果をまとめて作成されたものである。
 各分野の学会誌およびホームページに掲載されている。
- 7) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について
 研修委員会 永尾理事より
 ・現時点で教育講演1題、シンポジウム1題(シンポジスト3名程度。若手の先生)を企画している。
 ・学生実施危機管理マニュアルは現在監修中。紙面による配布ではなくホームページ上へ、pdfファイル等でUPし配布する方法も検討する。また、その際の閲覧制限についても考慮する。
- 8) 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会について
 第7回大会長 寺平先生より経過報告
- 9) 平成22年度本協議会模擬試験について
 中国四国部会長 吾妻先生より収支決算報告
- 10) その他
 - (1) 平成22年度第3回教育問題検討委員会報告
 - (2) 平成22年度第3回大学指定校化委員会報告

3. 議案審議

- 1) 第一号議案 平成22年度事業経過報告について(前事務局 望月氏)
- 2) 第二号議案 平成22年度決算報告について(前事務局 望月氏)

全会一致で承認。

- 3) 第三号議案 平成22年度監査報告について(小田監事)
- 4) 第四号議案 次期(平成23・24年度)理事・監事の選任について(伊藤事務局長)
- 5) 第五号議案 平成23年度事業計画案について(伊藤事務局長)
 臨時総会は平成23年12月19日(月)に開催する。全会一致で承認。
- 6) 第六号議案 平成23年度予算案について(伊藤事務局長)
 全会一致で承認。
- 7) 第七号議案 新規加盟希望校の承認について
 4校(うち2校がダブルライセンス校)とも、理事会で要求した書類は全て提出された。
 現行の規定上、入会を拒む根拠はなく、4校の入会を承認した。
 ダブルライセンス校に対して入会許可の通知をする際は、4者会談の声明文を添付する。
- 8) その他の議案
 - (1) 協議会編国家試験模擬試験について
 吾妻副理事長より、従来「関西模試」として実施していた模試を本会主催の模試とすることにしたが、依然旧来の担当者がその実務を担っており、担当者の負担が増大している現状を鑑み、実施方法について理事会で検討して欲しい旨の要請があった。理事会にて実施方法の指針を打ち出し、年単位で担当校を決める等の運用を行う必要がある。また、出版社等の模試に比べて費用が安価すぎるため、材料実費に加えて担当者報酬等も考慮した額に設定すべきである。まずは吾妻副理事長を中心に、現担当者の立場から構想を練って貰う。
 - (2) 顕彰の件
 「永年精勤賞」受賞者には時計を副賞として渡した経緯があるが、今後多数の会員が受賞対象となった場合、前例通りの対応は財政的に困難である。今後のためにも顕彰に関する内規を設ける必要があり、まずは三村理事長が素案を作成する。
 「教育功労賞」は、今年退任する理事・監事、および永年に渡り事務局を担った昭和医療技術専門学校に贈る。副理事長の大澤進氏、佐藤健次氏を名誉会員としたい。
 - (3) 震災基金の件
 各校調査の結果、少なからず被災している学生がおり、本会としても経済的支援をしたい。
 日本臨床検査同学院より、奨学金として300万円が提供されるという話を頂いている。
 基金には限度があるので、対象者の審査は厳格に行う必要があり、学校経由での申請、審査としたい。分配額が少なくなりすぎないように、また継続的にいける方法を考える。
 - (4) 大学における臨地実習期間について
 各校へのアンケート調査の結果、40日間(週5日として8週間)との回答が7施設と最多数を占めた。アンケート結果は、臨地実習の必要期間算定の根拠として、厚生労働省への要望資料として利用する。
 - (5) 評議員の選出について
 評議員の推薦依頼文書を各校に送付する。
 推薦文書中に「1校あたり1～2名」とあるが、全校から2名の申請があった場合には人数が多くなりすぎてしまうので、その際は理事会にて人数調整を行う。

平成23年5月23日

議事録署名人 今井 正 印
 議事録署名人 城田 恵次郎 印

平成23年度 定時総会 報告

開催日時：平成23年5月23(月)13時～16時
 場 所：東京医科歯科大学 1号館9階 特別講堂
 加盟校数：72校
 出席校数：72校(委任状を含む)
 参加人数：94名

1. 開会の辞(理事長挨拶)

2. 報告事項

1) 各種調査について

(1) 震災の影響についてのアンケート結果

3月11日に起こった東日本大震災の被災状況を調査した。その結果、学生の人的被害はなかったが親を始め祖父母などの肉親の死亡や家の全壊、半壊などの被害があったことを報告した。

(2) 国家試験卒業証明書の提出時期について

全国の養成校に対しアンケート調査を行い平成24年3月23日まで卒業証明書の提出が可能という結果を得て、厚生労働省医政局国家試験室に報告した。その結果、平成24年の国家試験発表が3月31日に可能となった。

2) 50周年記念事業について

平成23年5月22日(日)東京医科歯科大学 M&D タワーで記念講演会、記念式典が開催された。

記念式典は三村邦裕理事長の式辞から始まり、文部科学省、厚生労働省および各関連団体から祝辞を頂いた。

記念講演会は「臨床検査技師のグローバル化と国際貢献ー世界で活躍するための臨床検査技師教育ー」として講演会が行われた。

3) 臨床検査技師・臨床工学技士同時取得に関する関係4団体からの声明について

臨床工学技士、臨床検査技師同時取得に対し、関係4団体である日本臨床衛生検査技師会、日本臨床工学技士会、日本臨床工学技士教育施設協議会、日本臨床検査学教育協議会から教育に対する声明文を発表したことを報告した。

4) 第6回日本臨床検査学教育学会学術大会について

5) 第7回日本臨床検査学教育学会学術大会について

6) 平成22年度本協議会模擬試験について

7) その他

(1) 平成22年度第3回教育問題検討委員会報告

臨床検査技師・臨床工学技士資格の同時取得の問題について臨地実習期間が短いことも問題があり、関係4団体会談の必要性を本協議会理事長に答申した。

(2) 平成22年度第3回大学指定校化委員会報告

大学の指定校化に関するアンケートの集計結果について報告と今後の活動の報告があった。

3. 議長選任

議長 利光 央 氏(美萩野臨床医学専門学校)

4. 議案審議

- 1) 第一号議案 平成22年度事業経過報告について
全会一致で承認された。
- 2) 第二号議案 平成22年度決算報告について
全会一致で承認された。
- 3) 第三号議案 平成22年度監査報告について
全会一致で承認された。

5. 次期(平成23・24年度)理事長選挙(役員選考委員会)

三村 邦裕氏が平成23・24年度理事長として選任された。

6. 新理事長挨拶(三村 邦裕氏)

7. 議案審議(継続)

- 4) 第四号議案 次期理事・監事の選任について(役員選考委員会)
全会一致で承認された。
- 5) 第五号議案 平成23年度事業計画案について
全会一致で承認された。
- 6) 第六号議案 平成23年度予算案について
全会一致で承認された。

7) 会員入会希望について

下記の大学からの入会希望申請について理事会により承認され、問題点は含んでいるが、今後様子を見ることで了承された。

広島国際大学保健医療学部臨床工学科
 新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科
 純真学園大学保健医療学部検査科学科
 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科臨床検査コース

5. 文部科学省・厚生労働省からの指導・助言

文部科学省高等教育局医学教育課 医療技術係長

吉田 将吾 様

厚生労働省医政局医事課 指導係

藤本 晃 様

◇別冊資料

○平成23年度定時総会資料(報告事項)

1. 第57回臨床検査技師国家試験に関する報告
 - 1) 厚生労働省に提出した意見書並びに要望書
 - 2) 第57回臨床検査技師国家試験に関する資料